

三翠ホール 年300万円でいかが？

三重大がネーミングライツ販売



命名権売却の対象となる三翠ホール。津市の三重大。

三重大は、学内施設のネーミングライツ（命名権）を売り始めた。国立大の財政状況が厳しくなる中、同様の動きは他の国立大でも広がっている。担当者は「地域に開かれた大学としてアピールし、共同研究などで企業と連携を深めたい」と期待する。（豊田 晴世）

企業と連携 深めるきっかけに

ラフハウス（飲食店）の命名権も順次、販売する。3～5年の契約期間で、予定価格の最低額の教室が年30万円、最高額の三翠ホールが年300万円。幅広い学生が利用し、命名権になじみやすい施設が対象で、ホームページで詳細を公開している。正式な入札を受けた後、要約や応募趣旨などを審査する予定だ。

背景には、国立大の財政状況がある。2004年に国立大法人がなつて以降、国は年々、国立大に交付する運営交付金を減らしている。自主財源を確保するため、名古屋大や愛知教育大、静岡大なども既に学内施設の命名権を販売している。

三重大は、20年度に企業のPR映像などを映せる大型ビジョンを学内の食堂に設置した。年間12万円、半年で7万2千円の放映料を、約150社が採用や企業の情報などを流している。

三重大の担当者は「研究を発展させる上でも独自財源の獲得を考える必要がある」と説明し、命名権について「企業から見学希望の連絡もあり、手応えを感じている。企業側からは学生の就職につなげたいニーズがあるのではないかと話した。」

（三重大）059223192